

みんなで男女共同参画の輪を広げよう

男女共同参画市民情報誌ゆっパル特別版

男女が個性と能力を

発揮できる地域づくり

私は市内にある医療機関の地域連携室で働いています。地域連携室は、患者さんがスムーズに医療機関から退院・転院できるように、医療や介護施設をはじめ、行政や福祉と関わる多くの施設、職種につなぐ役割を担っています。その中でも、介護に関する相談は多く見られますが、高齢者の介護は誰もが直面しうる問題上となる2025年に向けて、要介護高齢者の増大、介護する側の高齢化など、その問題の深刻さが指摘されています。

一方、家族の介護を担うのは、現在でも女性が多く、子育てと親の介護を同時に抱える「ダブルケア」状態に陥ることもあります。「老々介護」「息子介護」など、家族介護の形は色々です。その結果、思い詰めたままの離職という選択にもなりがちで、このことは本人だけでなく、家族や職場にも大きな犠牲を強いることになり、社会全体の損失にもつながります。介護保険制度などの環境が整えられ、介護現場にも男性の進出が見られますが、世界に類を見

ないスピードで高齢化が進んでいる現状を考えると担い手不足は否めません。

この高齢化社会を乗り越えるため、「高齢者自らが元気に暮らし続けて、住み慣れた地域で生涯活躍できないかな」との思いで、現在、医療・福祉に勤務する仲間とボランティア活動をさせてもらっています。男女の性別、年齢に関係なく、個性と能力を発揮できるコミュニティづくりを行うことで、地域から多様な人材が掘り起こせればと思っています。活動自体は、とてもささやかですが、性別・年齢による固定的な役割分担意識をなくし、一人ひとりがそれぞれの持ち場で全力を尽くすことによって、地道に一步一步、出来ることから活動を進めていければと思っています。

★著者紹介



原田 綾子 さん
医療法人泰仁会十和田第一病院
医療介護連携室長 代表
コミュニティワーク 礎

問総務課広報男女参画係 ☎6702

男女が支え合い活力あふれる社会へ

男女共同参画

問総務課広報男女参画係

☎6702

防災は男女共同参画の視点で

災害から受ける影響や支援ニーズは、男性と女性で異なります。そのため、災害対応における「男女共同参画の視点」は重要となっています。東日本大震災では、女性用の物資が不足したり、授乳や着替えをするための場所がなかったり、女性だから」ということで当然のように避難所の食事準備を割り振られたりするなど、さまざまな場面において、「男女共同参画の視点」での対応が不十分だったことが国に報告されたといえます。

平成28年の熊本地震においては、発災直後から授乳室などの女性専用スペースや、更衣室の確保などに配慮する避難所がある一方で、プライバシーの確保については、必ずしも十分な取り組みがされておらず、女性に対する災害対応は、まだまだ課題があるのが現状のようです。

「女性像」による役割や立場の違いなどがありますが、災害においては、女性の死者が男性を上回ったり、男性に比べて女性が災害後の雇用状況や健康状況が厳しかったり、女性の方が避難所生活で不便（生活環境、ケンカなど）を感じるというわれています。

これからの防災は、男女の「共助」を機能させるため、地域の防災活動や町内会などの防災活動において、女性の意見を反映させた防災が重要となります。

それには、「女性が防災計画に参画すること」「妊産婦や乳幼児が安全で確実な避難ができるよう、妊産婦や乳幼児の保護者は、防災知識を学習し、地域や町内会の防災訓練に参加すること」「防災を担う女性リーダーが防災の現場で活躍できるような体制をつくること」など具体的な対応が望まれます。

災害が与える影響は男性と女性で異なる
男性と女性は、「性別など生物学的な違い」「社会通念や慣習で、社会の中で作り上げられた「男性像」

地域住民は防災について、あらゆる機会において学習を行うことが必要で、「男女共同参画の視点」からの災害対応について、一層理解を深めることが大切です。

(参考・内閣府男女共同参画局発行「共同参画」)

女性の意見を反映させよう！
防災意識を高めよう！

